

黒之瀬戸大橋あらし

黒之瀬戸架橋のあゆみ

昭和 21 年 12 月	県営フェリー運行開始
昭和 38 年 9 月	「黒之瀬戸丸」就航
昭和 38 年 10 月	阿久根・東・長島の 1 市 2 町が架橋期成同盟会を結成
昭和 40 年 6 月	道路公団理事ら現地視察、予備検討路線指定
昭和 42 年 10 月	道路公団が現地架橋調査
昭和 43 年 7 月	佐藤栄作首相に 1 市 2 町と婦人会関係者が昭和 44 年着工を陳情
昭和 44 年 1 月	「架橋決定」の通知届く
昭和 45 年 4 月	道路公団が阿久根市脇本に工事事務所を開設
昭和 47 年 5 月	黒之瀬戸大橋起工式
昭和 48 年 7 月	閉合式が行われ、橋げたが中央部でつながる
昭和 49 年 4 月	9 日開通式 県営フェリー「黒之瀬戸丸」廃止
昭和 50 年 4 月	一般国道 389 号に昇格
昭和 59 年 1 月	通行累計台数 1,000 万台突破
平成 2 年 9 月	鹿児島県に引き継ぎ無料開放



開通式を見守る住民



建設中の橋脚と黒之瀬戸丸



建設中の橋（閉合前）



開通式では両側でテープカット

地形

阿久根市と長島町を隔てる黒之瀬戸海峡の架橋部の海底は、阿久根市側が約 20 度、長島町側が約 30 度の勾配で海底へ下りスリバチ状となっていて、最深部は約 60メートルとなっています。

橋脚（下部工事）

橋脚の基礎の施工は、この橋梁の建設にあたり最も困難であった部分で、当時は全国でもほとんど例を見ない難工事でした。潮流抵抗の大きい箇所での作業は、施工の早期完了・安全・確実な達成に主目的が置かれ、陸上で組み立てた鋼製の型枠を大型クレーン船で所定位置に潮止まりをねらって据え付けを行う工法が採用されました。

架設（上部工事）

昭和 48 年 4 月から 7 月まで架設作業が行われました。台風シーズンで作業には万全が期されましたが、幸いにも架設期間中の台風通過はありませんでした。上部工事の架設作業は、次の 3 点に留意して取り組まれました。

- ① 台風多通過地域であるため、短期間での工事を行う。
- ② 両岸からの張り出し工法であったため、高度な精度管理が必要である。
- ③ 組み立ては高所作業で、下が急流海峡であったことから、作業員の墜落防止を行う。

維持管理

昭和 55 年の 1 回目の塗り替えの際に建設時のシルバークレーからダルブルーに塗り替えられました。ダルブルーは橋の存在感を失うことなく、黒之瀬戸の深い海の色とクリアな空に調和する色として、また、汚れが目立たない点も考慮されて採用されました。検討段階においては、第 2 候補として、黒之瀬戸の海と空の色とコントラストとなる、クリーム系のイエローであるペーリイエローの案もありました。

【参考文献】『黒之瀬戸大橋のあゆみ』日本道路公団福岡管理局、黒之瀬戸大橋管理事務所（平成 2 年 10 月 30 日発行）



黒之瀬戸大橋開通 50 周年記念事業協議会 会長 長島町長 川添 健

黒之瀬戸大橋開通 50 周年記念事業協議会 副会長 阿久根市長 西平 良将

長島町と阿久根市をつなぐ橋が完成して 50 年を記念するこの日はとても感慨深いものがあります。この橋により、活発な本土との交流が生まれ、町民の暮らしは劇的に変化した。かつては孤立した島であった本町に未来への扉が開かれました。その後の経済の発展は目覚ましく、心の架け橋としても地域に恩恵をもたらしました。今後は、三県架橋や地域高規格道路、獅子島架橋により、さらなる発展を皆さんと共に歩いていく覚悟です。

地域住民が待ち望んだ「黒之瀬戸大橋」が開通した昭和 49 年 4 月 9 日から 50 年経過し、このように記念式典を開催することができたことは非常に感慨深いものがあります。今では当然のように通行している黒之瀬戸大橋ではありますが、あらためて先人たちのご苦勞と橋がもたらした今の生活を振り返り、この橋を地域の財産としてしっかり守りながら、阿久根市と長島町が手を取り合って、共に発展してまいりたいと考えております。

4 月 9 日、本町と阿久根市を結ぶ黒之瀬戸大橋が開通 50 周年を迎え、道の駅黒之瀬戸だんだん市場前駐車場で記念式典が開催されました。式典は、黒之瀬戸大橋開通 50 周年記念事業協議会（会長・川添健町長）主催で行われ、副会長の西平良将阿久根市長の他、両地区の関係者ら約 60 人が出席しました。



うずしおパークから黒之瀬戸大橋を見学



オープニングを飾った鹿児島県沙門太鼓習流による太鼓演奏



万歳三唱で式を締めくくる



通行料の回収完了



盛大に行われた渡り初め



カーフェリーの黒之瀬戸丸

当 初、自動車の通行量を 1 日約 1000 台を見込んでおり、橋の通行料は 30 年間をめどに徴収する予定でした。しかし実際は 1 日平均 3450 台が通り、開通から約 10 年で通行累計台数 1000 万台を突破しました。その後も通行量は年々増加し、早期に建設費用の回収が完了し、17 年後の平成 2 年 9 月には無料となりました。

開 通式では、橋が永く健全であるようにと願いをこめ、東町、長島町、阿久根市から親子 3 代の夫婦 22 組や児童 600 人による渡り初めが盛大に行われました。花火が上がると、風船が飛び交う中、橋の中央に敷かれた赤いゆわたんの上には、身動きできないほど多くの人たちの笑顔があふれていました。

阿 久根の黒之浜港と長島の瀬戸港間を車ごと移動することができる県営フェリーの「黒之瀬戸丸」は、昭和 33 年の就航から人や車の輸送だけでなく、島民の生活物資や文化を支えるため運行してきましたが、昭和 49 年黒之瀬戸大橋開通により、この年の 4 月 9 日、阿久根市民、長島島民に惜しまれつつ姿を消すことになりました。